

01 | スタートアップ支援事業

実施日 通年 担当部局 地域連携センター 連携先など 大阪府、大阪市

2021年度は10件の行政ニーズについてコーディネートを行い、3件のマッチングが成立しました。

■大阪府

行政担当部局	案件名	担当教員(*代表者)
大阪港湾局	港湾施設点検のスマート化のためのドローン活用における実証実験を通じた人材育成プログラムの開発	工学研究科 教授 川合 忠雄 教授 重松 孝昌 准教授 吉田 大介*



大阪港湾局・ドローン操作実技研修の様子

■大阪市

行政担当部局	案件名	担当教員(*代表者)
大阪市北区	北区情報アーカイブにむけた地域歴史写真の企画展示と市民講座*2022年度に本格的事業化へ展開	都市研究プラザ 教授 水内 俊雄* 特任講師 櫻田 和也
大阪市民局	地域防災活動への女性の参画を促すための調査研究	生活科学研究科 准教授 生田 英輔*

PICKUP 1 >>> 大阪市北区・まちなみ古写真展・企画講座の開催

大阪市北区では、北区にまつわる今昔の写真を収集しデジタルアーカイブ化を進めることで、地域の歴史的魅力を次世代に繋げることを目指しています。その導入として、2022年1月12日～31日に北区役所区民交流プラザにて、明治から昭和初期にかけての梅田・中之島界隈の古写真の展示(故・上田貞治郎アーカイブ史料より精選)と、地域の変遷や歴史をたどる企画講座を行いました。歴史史料を残す大切さを考える時間となりました。

PICKUP 2 >>> 大阪市民局・女性と防災に関するアンケート

大阪市民局と協働し、地域住民の防災意識や地域活動における女性の関わり方に関するアンケート調査を行いました。2か月にわたるアンケート期間には520件の回答があり、現状把握につながる多くの課題が得られ、本アンケートが女性の防災活動参画を進める大きな一歩となりました。また、回答いただいた方から抽選で200名の方には手持ちサイズの「防災ポーチ」をプレゼントし、改めて防災に向けた備えの大切さを呼びかけました。

SDGsへの取り組み



02 | 健康キャンパスプロジェクト

担当部局 都市健康・スポーツ研究センター、人間社会システム科学研究科 連携先など 大阪府健康医療部

大阪府では「10の健康づくり活動」として『健活10』というキャッチコピーのもと、生活習慣の改善や生活習慣病の予防等に向け、府民の健康づくりを推進しています。大阪府内の各大学と連携した、若い世代の健康づくりを支援する「健康キャンパスプロジェクト」に本学も参画しています。

■ヘルスリテラシー向上セミナーと測定会の開催

実施日：2021年12月16日(木)

- ・セミナー 「ワクチンの効果と安全性について」医学研究科 准教授 大藤 さとこ
「ガッツ(腸)とマッスル(筋肉)であなたの免疫力アップ！」生活科学研究科 特任教授 本宮 暢子
(参加者：各回約30名)
- ・測定会 体組織や骨密度等の測定や食育SATシステム、ベジチェック等の体験会を実施し、自分の状態を数値等で可視化することにより、健康づくりの意識向上につなげました。(参加者：約150名)

■健康アプリ「アスマイル」を活用した研究(大学生の生活習慣改善を促すLINEチャットボット～「アスマイル」の継続支援～)

実施期間：2021年6月～2022年2月

研究室との共同事業として、学生がよく利用するLINEチャットボットと大阪府の健康アプリ「アスマイル」を連携させ、ゲーム感覚で楽しく健康管理ができる工夫などを盛り込みながら、日々の健康活動を記録できるような研究を行いました。

担当：現代システム科学域 阿部 祐来、

人間社会システム科学研究科* 教授 真嶋 由貴恵、准教授 樹田 聖子

*2022年4月から現代システム科学研究科

SDGsへの取り組み



03 | 受託事業

1 西成情報アーカイブネット企画運営事業

実施日 通年 担当部局 地域連携センター 連携先など 大阪市西成区

■拠点における常設展示・資料解説・閲覧対応

■地域教材DVDの制作

「産業と生活」編を新たに作成するとともに、前年度に作成した2編「歴史と地理」、「戦争と空襲」を合わせてチャプター編集を行い、より使いやすい教材へと仕上げました。

■教職員向け研修会の実施

2021年8月25日(水)大阪市立橋小学校 8名

2022年3月30日(水)大阪市立南津守小学校 22名

各小学校にて、地域の歴史やDVDの効果的な活用方法について解説しました。

講師：都市研究プラザ 教授 水内 俊雄、西成情報アーカイブ 吉村 智博

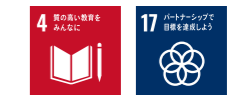
■その他

- ・預かり資料の整理とデータ化
- ・メディア、出版物等への資料提供 など



教員研修会の様子

SDGsへの取り組み



2 津波浸水区域外での災害時避難所確保計画策定に向けた調査・分析業務(湾岸8区)

実施日 通年 担当部局 地域連携センター、都市防災教育研究センター

南海トラフ巨大地震における津波浸水により自区避難が困難な8区*1の2次避難計画(案)、および自区避難可能な9区*2の避難対策案(暫定)を作成しました。また、浸水区域外への避難行動を想定した図上訓練や、津波2次避難を想定した港区から天王寺までの歩行訓練を実施しました。

*1 此花区、港区、大正区、西淀川区、福島区、西区、淀川区、西成区

*2 北区、都島区、中央区、浪速区、旭区、城東区、鶴見区、西成区(一部)、住吉区



図上訓練の様子

SDGsへの取り組み



3 旭区防災教育事業

実施日 通年 担当部局 地域連携センター、都市防災教育研究センター

連携先など 大阪市旭区

旭区内の4つの中学校にて防災教育プログラムを実施しました。旭陽中学校・今市中学校では「備蓄品・非常用持ち出し袋」、大宮中学校・旭東中学校では「家具固定・家具配置の工夫」をそれぞれテーマとして、いずれも前半は講義形式、後半は個人ワークを主としたワークショップを行いました。

実施日：

2021年11月 6日(土) 旭陽中学校

2021年11月12日(金) 大宮中学校

2022年 3月15日(火) 旭東中学校

2022年 3月18日(金) 今市中学校

SDGsへの取り組み



講義の様子

4 市民活動に係る大学間ネットワーク構築推進等業務

実施日 通年 **担当部局** ボランティア・市民活動センター(V-station)
連携先など 堺市

V-stationでは、市民活動拠点機能を備えた堺市内で唯一の大学ボランティアセンターであることを活かし、堺市市民協働課の委託を受け、大学を拠点としたネットワーク組織の構築を進めてきました。本ネットワークを通じて、地域住民や企業等のボランティア活動・市民活動のニーズに応じ、堺市を中心に近隣大学とのつながりづくりを目指しています。数年間の準備期間を経て、2022年春に8つの大学*が連携するネットワーク組織が発足し、V-stationがその事務局を担い、活動していきます。

*大阪健康福祉短期大学、大阪物療大学、堺女子短期大学、帝塚山学院大学、羽衣国際大学、桃山学院教育大学、桃山学院大学、大阪公立大学(2022.4~)



SDGsへの取り組み



5 「多自然地域一日生活圈維持プロジェクト」におけるドローンの活用

実施日 通年 **担当部局** 都市防災教育研究センター* **連携先など** 兵庫県

兵庫県が進める「多自然地域一日生活圈維持プロジェクト」では、人口減少が進む多自然地域における輸送や買い物弱者等の課題解決および住民サービス向上のためのドローンの利活用に関する調査研究を進めています。その一環として、中山間地域である川辺郡猪名川町をフィールドに実証実験を複数回実施しました。実証実験では、さまざまなシナリオを想定した輸送実験のほか、大型スピーカーや高倍率ズームカメラ搭載のドローンによる集落の見守りや、地域の小学校を対象としたドローン・プログラミングの授業を行いました。

*2022年4月から都市科学・防災研究センター



大型スピーカー搭載ドローン

SDGsへの取り組み



6 神戸市子どもの生活に関する状況実態調査及び分析業務委託

担当部局 人間社会システム科学研究科* **連携先など** 神戸市

貧困の連鎖の防止をはじめとする子どもへの支援策を推進していくためには、効果的な支援のあり方を検証し、また、支援を必要とする子どもと家庭に確実に届く支援策と仕組みの構築が必要です。すべての子どもたちが未来に夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指して、市の実情に応じた効果的な施策の企画立案につなげるため、子どもの生活状況について実態調査を実施し、結果の分析を行いました。

■**担当教員** 人間社会システム科学研究科* 教授 山野 則子 *2022年4月から現代システム科学研究科

SDGsへの取り組み



7 沖縄子供の貧困緊急対策事業分析・評価・普及事業に係る業務委託

担当部局 人間社会システム科学研究科* **連携先など** 沖縄県

本調査では、「沖縄子供の貧困緊急対策事業」の施策の検証および評価を目的に、2つの手法により、県内の子どもの貧困状況と貧困対策支援員(以下、「支援員」という)の活動の把握を行いました。

■**担当教員** 人間社会システム科学研究科* 教授 山野 則子 *2022年4月から現代システム科学研究科

▶連携手法分析

山野研究室で研究を進めるスクリーニングシートを用いたスクリーニング会議の実施により、地域において困難を抱える子どもの情報を把握し、関係者が連携して適切な機関等へつなげる仕組みの構築を検討しました。

▶貧困対策支援員活動分析

各市町村に配置された支援員の活動内容を把握し支援員に求められる役割やあり方を分析することで、今後の緊急対策事業の優先度等の整理を行いました。

SDGsへの取り組み



04 | 新型コロナウイルス感染症に関する医学研究科の取り組み

担当部局 医学研究科 **連携先など** 大阪府、大阪市

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、医学研究科では、大阪府・大阪市と各々連携協定等を締結し、感染拡大防止並びに予防ワクチン・治療薬等の早期実現化に向けた研究開発を推進しています。

■**予防接種後コロナウイルス抗体検査等業務委託**

■**新型コロナウイルス感染症抗体検査にかかる予防ワクチン・治療薬等の研究開発にかかる連携に関する協定**

■**新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた共同研究、検査体制の充実に係る連携に関する協定**

SDGsへの取り組み



05 | 大阪府×大阪府立大学共催セミナー「実践!時系列データ分析」

実施日 2021年12月1日(水) **連携先など** 大阪府

大阪府統計課と大阪府立大学は、統計の普及啓発、利活用促進、人材育成等を目指し、統計分野における連携協定を締結しています。協定に基づき2018年度から始まった本セミナーは、今回で4回目の実施となりました。2022年度からも、大阪公立大学として引き続き本セミナーを継続していきます。

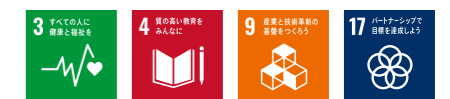
開催場所: I-site なんば
プログラム

	タイトル	講師
第1部	早わかり!産業連関表	大阪府総務部統計課 職員
第2部	実践!時系列データ分析	経済学研究科 准教授 立花 実

株価やGDPなど、時間を通じて観測されるデータは時系列データと呼ばれます。大阪府統計課の職員より、大阪府産業連関表の概要や見方について紹介いただいた後、フリーの統計分析ソフト「R」を実際に操作しながら時系列データの分析について解説しました。株価指数データを用いて株式リターンの統計的な特徴や基本的なモデリング法なども併せてお話することで、さらに広い視点から理解を深めていただきました。



SDGsへの取り組み



06 | 堺市産学公連携事業

実施日 通年 **連携先など** 堺市産学公連携推進協議会

「産」「学」「公」の幅広い分野の連携により、産業振興や地域課題の解決、人材育成等、地域社会の発展に寄与することを目的に、堺市・経済界・金融機関からなる「堺市産学公連携推進協議会」との連携事業として、下記に取り組みました。

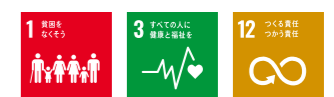
■**保育士確保に向けた保育現場の新しい働き方モデルの調査・実証業務**

担当: 人間社会システム科学研究科 現代システム科学専攻 医療・看護情報システム研究室
保育現場での保育士確保は重大な課題であり、保育の担い手として潜在保育士の就職支援等の新たな取り組みが求められています。潜在保育士の保育士就職における課題を明らかにするとともに、就業支援に繋がる新しい働き方モデルを考案し実践に繋げるための就業支援システムの開発に取り組みました。

■**AIを活用した建築設計時の業務量削減に資する支援ツール作成業務**

担当: 人間社会システム科学研究科* 教授 中島 智晴 *2022年4月から情報学研究科
建築積算における積算書及び図面の監理業務を支援するシステムの開発を行いました。作成した積算書を、統一したデータベースで管理し、検索・比較を容易にする情報基盤や図面と積算書との整合性チェックにおける作業自動化をDX技術やAI技術により達成することを目指しています。

SDGsへの取り組み



07 | 堺市と連携したスポーツ推進に関する取り組み

実施日 通年 担当部局 高等教育推進機構 連携先など 堺市ほか

堺市との包括連携協定に基づき、さまざまなスポーツの場面で連携するとともに、学生の授業カリキュラムとしても展開しています。2021年4月には、すべての人が生涯にわたりスポーツを通じて豊かで健やかな生活を過ごすことのできる地域社会の実現を目指した「堺市スポーツ推進プラン」が策定され、より一層の連携の輪が広がっています。以下にて、2021年度に連携して行った事業の一部をご紹介します。

■親子で！エンジョイススポーツフェスタ

2021年10月31日(日)に、堺市主催のもと、市内在住の子どもを対象に、バレーボール(堺プレイヤーズ)・ダンス(大阪エヴェッサアカデミーチアダンススクール)・走り方教室(オリンピック・土佐礼子選手)を迎えた体験型のイベントが開催されました。本学でも授業と連携し、運営サポートとして学生が参画し貴重な体験を得ることができました。



親子で！
エンジョイススポーツフェスタ



体力測定会

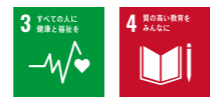
■体力測定会の実施

堺市では、スポーツを通じて明るく元気で活力あるまち「スポーツタウン・堺」の実現を目指しています。市民が継続的にスポーツや運動に取り組むきっかけをつくるため、体力測定会を実施しました。本学の副専攻科目とも連携し、学生も運営スタッフとして参画しました。

■堺市地域スポーツ指導者養成講座

地域や職場においてスポーツ指導者として活躍できる、スポーツ指導者の養成を行っています。本学は協力団体として開講プログラムの一部を担い研修を行っています。

SDGsへの取り組み



08 | スクリーニング活用拡充事業における委託業務

実施日 通年 担当部局 人間社会システム科学研究科* *2022年4月から現代システム科学研究科

連携先など 門真市、大東市、羽曳野市、泉大津市教育委員会、富田林市教育委員会、能勢町、田尻町など全国20自治体

不登校、いじめ、発達障害、虐待、孤立などの、昨今の児童生徒が抱える諸問題の解決にあたり、個々の児童生徒の課題を早期発見するとともに、教職員間で情報を共有する仕組みを構築するため、山野則子研究室ではYOSS(スクリーニングシステム)を開発しました。これを利用した小中学校でのスクリーニング活用を拡げています。

2021年度は、科研費基盤研究A研究課題「子どもの課題スクリーニングから支援・効果まで循環するシステム構築」において研究対象として協力依頼を求めた自治体や、研修会などをきっかけに依頼をいただいた自治体など全国に拡充して活用されました。



スクリーニング意見交換の様子

スクリーニングとは？

子どもの最善の利益のために、すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別 YOSS(Yamano Osaka Screening System®、ヨース ※特許申請中)

SDGsへの取り組み



09 | 留学生と地域の交流を通じた大阪府岬町の地域活性化プロジェクト

実施日 通年 連携先など 岬町

本事業は、本学の留学生と岬町の人々(特に小学生)との交流事業として、2011年度に包括連携協定を締結したことから始まりました。交流を通じて地域の活性化に貢献すると同時に、留学生にとっても大学内だけでは得られない国際交流の機会を創出することを目的とし、さまざまなプロジェクトを展開しています。2021年度は、『(公財)中島記念国際交流財団助成』(独)日本学生支援機構留学生地域交流事業として実施しました。

■小学校交流を通じた継続的な地域交流プロジェクト

実施日：2021年7月16日(金)、10月16日(土)

多奈川小学校の児童と交流しました。7月は、留学生2名が3年生の皆さんとオンライン交流会を行いました。コロナ禍のため現地に伺うことはできませんでしたが、児童による学校や地域の紹介、練習してきたけん玉の披露、留学生による自国の文化や食べ物をクイズ形式で紹介するなど、積極的にコミュニケーションを図り異文化理解を深めました。10月には15名の留学生が小学校で開催された「岬町のちを守る植樹祭」に現地参加しました。児童と一緒に苗木を植え、ミニゲームを通じて交流を深めました。



植樹祭の様子

■留学生と岬町地域住民との交流プロジェクト

実施日：2021年10月16日(土)

多奈川小学校で開催された「植樹祭」の後は、児童や地域住民などが主催する「福祉&多奈川小フェスタ」に参加しました。小学生による発表も行われ留学生たちも聴講しました。特に、1年生がプログラミング学習をしていることや、5・6年生がSDGsに関連した発表を行ったことが印象的だったようです。その後、海岸線を歩いて岬町の美しい海を堪能し、一日をとおして文化や自然に触れた有意義な体験となりました。



サイクリング後の記念撮影

■岬町の魅力発見プロジェクト

実施日：2021年11月23日(火・祝)

留学生8名が岬町内を自転車で周遊する「岬町魅力発見サイクリングツアー」に参加しました。ガイドの先導のもと、いくつもの観光スポットに立ち寄りながら、地元の方と交流したり史跡の説明を受けたりし、文化や歴史に触れる貴重な機会となりました。

SDGsへの取り組み



10 | 委員委嘱・アドバイザー派遣

実施日 通年

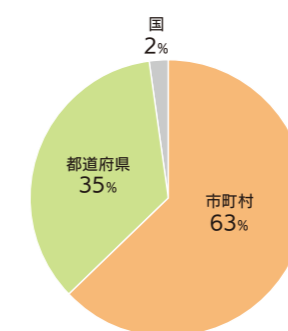
大阪府や大阪市をはじめとする多くの行政機関・自治体から、本学教員の専門性に基づく知見を活かした助言を求める依頼が数多く寄せられます。会議等の委員や事業アドバイザーとして本学教員が幅広い分野の施策に携わり、課題解決に貢献しています。

》》就任一例

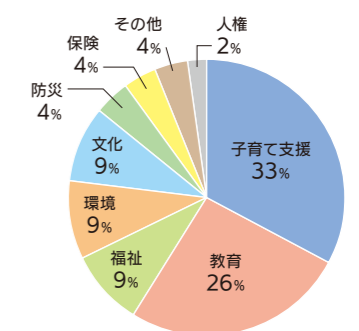
子どもの貧困対策関連会議における市長レクチャー、文化芸術振興関連会議、防災会議、各種計画策定へのアドバイスなど

*2021年度実績のすべてが反映されているわけではありません。

■行政別



■依頼分野



SDGsへの取り組み



地域・団体との連携

01 | 博学連携事業

実施日 通年 **担当部局** 地域連携センター、文学研究科、理学研究科

連携先など 地方独立行政法人大阪市博物館機構、一般財団法人大阪市文化財協会

包括連携協定に基づき、それぞれの専門性を活かした講演会やシンポジウムなどの開催や、共同研究、学生支援活動を行いました。

■地域貢献

- 講演会「光の物理とアインシュタイン」(2021年12月開催/YouTube Live配信)
アルベルト・アインシュタイン(1879~1955年)のノーベル物理学賞受賞100年の記念に合わせ、井上慎 教授(理)が、アインシュタインの光と原子に関するアイデアや実験について、わかりやすく解説しました。
- シンポジウム「おおさかを描く、おおさかで描く ~大坂/阪 画壇再考~」(2022年3月 大阪歴史博物館にて開催)
近世の大坂、近代の大坂で活躍をした絵師や画家たち(大坂/阪 画壇)に焦点をあて、菅原真弓 教授(文)ほか4名の講師が、作品の魅力や現在の研究状況について報告し、活発な討議を展開しました。
- 連携講座「近世都市大坂像の新展開」(2021年11月文化交流センターにて開催/全4回)
- 連続講座「天文と歴史」(2022年3月開催/全3回)

■共同研究

戦略的研究 基盤研究「豊臣期大坂城本丸の復元研究—サウンドイング調査による文理融合の試み—」 研究代表者：文学研究科 教授 仁木 宏

■学生支援

- 学芸員養成課程での学芸員の講義
- キャンパスメンバーズ制度 など



「おほさかを描く、おほさかで描く ~大坂/阪 画壇再考~」



「天文と歴史」

SDGsへの取り組み



02 | 今福プログラミング教室 「泳いで!飛ばして!くっついて!おもしろロボット!」

実施日 2021年12月4日(土) **担当部局** 地域連携センター **連携先など** 城東区今福地域活動協議会

今福プログラミング教室では、数年前から地域の子どもたちを対象としたプログラミング学習に取り組んでおり、本学に地域のICT化促進に向けた取り組みについて相談が寄せられたことがきっかけで講演会が実現しました。講師がコンピューターの仕組みやプログラミングについて話し、高田研究室の学生が実際にロボットを目の前で動かしながら説明したりと、参加した子どもたちは興味深々で耳を傾けていました。



アットホームな雰囲気でお話しました

開催場所：今福老人憩の家

講師：工学研究科 教授 高田 洋吾

参加者数：41名(スタッフ、関係者含む)

SDGsへの取り組み



03 | JR西日本×大阪市立大学「第3回まちのにぎわい創出アイデア発表会」

実施日 2021年8月~2022年1月 **担当部局** 地域連携センター **連携先など** 西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本)

学生の知恵とアイデアを募り「まちのにぎわい」につなげる、企画提案型の発表会です。プレワークショップを兼ねた事前説明会を行い、応募学生による報告会をハイブリッド形式で実施しました。

テーマ：JR西日本公式アプリ「WESTER」を活用したまちのにぎわい創出アイデア提案

参加チーム数：2組(8名)

スケジュール：2021年 8月12日(木) プレワークショップ&説明会
2021年11月24日(水) 質問会
2022年 1月19日(水) 最終報告会

発表タイトル：【ユニーク賞】『ARを用いた新しいアニメ聖地巡礼』
高木 莉奈、三輪 菜摘、岸本 渚(文学部)
(指導教員：文学研究科 准教授 天野 景太)
【ビジネスモデル賞】『Wester「ちょっとひとえき」機能の提案』
岸 若夏、田中 茜、前田 美和、米川 明音、和田 百々葉(文学部)
(指導教員：文学研究科 准教授 天野 景太)



最終報告会で表彰された発表者たち

SDGsへの取り組み



04 | 第18回三大学連携事業公開講座「SDGs—誰一人取り残さない社会のために」

実施日 2021年11月28日(日) **担当部局** 地域連携センター **連携先など** 関西大学

大阪市立大学、大阪府立大学、関西大学の三大学は、2008年に包括連携協定を締結し、毎年公開講座を共催してきましたが、本年は、三大学としては最後の開催となり、大阪市立大学が幹事校を務めました。

2019年度以降「SDGs」を共通のテーマに掲げてきましたが、今回は、その根幹となる「誰一人取り残さない社会」の実現をテーマに、国内外の多様な課題に一步踏み出して活動している方を講師に招きました。

基調講演では、株式会社マザーハウス代表取締役兼チーフデザイナーの山口絵理子 氏に、バングラデシュをはじめとする途上国での活動経験、起業時の志や理念などを幅広い観点からお話いただきました。

パネルディスカッションでは、三大学の卒業生をパネリストに、垣田裕介 准教授(生科)のファシリテートのもと、ライブ感満載のディスカッションが展開され、これからの社会を担う若い世代に向けて多くのメッセージが発信されました。

受講者の関心の高さがうかがえ、SDGsへの理解を深め、自分にできることを考えていただく機会となりました。

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

参加者数：378名(最終申込者数)

第1部	基調講演「途上国から世界に通用するブランドをつくる」 山口 絵理子 氏(株式会社マザーハウス代表取締役兼チーフデザイナー)
休憩	学生によるSDGsの取り組み紹介(資料配信)
第2部	パネルディスカッション 「「誰一人取り残さない」未来のために私たちができること」 (パネリスト) 仲岡 しゅん 氏(うるわ総合法律事務所 代表弁護士) 中村 葉子 氏(大阪府立大学非常勤講師・客員研究員) 杉谷 嘉紀 氏(社会福祉法人寝屋川市社会福祉協議会 社会福祉士) (ファシリテーター) 垣田 裕介 准教授(大阪市立大学大学院生活科学研究科)



基調講演での質疑応答



パネルディスカッション



05 | 大阪府高齢者大学校との連携市民講座

実施日 2022年3月 **担当部局** 地域連携センター

連携先など 特定非営利活動法人大阪府高齢者大学校

開催場所：大阪市立大学文化交流センター

参加人数：のべ150名

実施日	タイトル	講師
2022年 3月15日(火)	関西の鉄道が演出した近代都市発展・開発の十景 ―鉄道を介したヘリテージツーリズムの薦め―	都市研究プラザ 教授 水内 俊雄
2022年 3月22日(火)	人生100年時代！健康・体力と防災―座学と実技から学ぶ―	都市健康・スポーツ 研究センター 教授 渡辺 一志
2022年 3月29日(火)	住まいの防災と安全―大阪での地震災害に備えて―	学長補佐・特任教授 宮野 道雄



全員でストレッチ！(3/22講座より)

SDGsへの取り組み

08 | UR都市機構森之宮第2団地におけるモデルルーム改修プロジェクト

実施日 通年 **担当部局** 総合リハビリテーション学研究所* **連携先など** 大阪市城東区役所、社会医療法人大道会、UR都市機構

スマートエイジング・シティの実現に向けた取り組みの1つとして、大阪市城東区、社会医療法人大道会、UR都市機構、本学の4者は、UR都市機構森之宮第2団地において、「健康・医療・介護」を体験できるモデルルームの改修プロジェクトを進めています。住民が住み慣れた地域で安心して快適に住み続けられ、かつ多様な世代の新たな住民を惹きつける、超高齢社会の活気あるまちのモデル実現に向けて活動を行っております。

2021年度は、2022年度のオープンに向け、「転倒予防・介護予防のお部屋」、「認知症を知るお部屋」を本学が、「介護・医療のお部屋」を社会医療法人大道会がそれぞれ監修し、各お部屋の詳細の検討や、その他備品の調達など、各所が連携し活動しました。また、十分な感染防止対策の上、対面、オンラインを併用し情報共有を行いました。

担当教員 総合リハビリテーション学研究所
教授 樋口 由美・横井 賀津志 助教 上田 哲也
*2022年4月からリハビリテーション学研究所



モデルルームの検討案

SDGsへの取り組み

06 | 堺市出張教室@DACCOプロジェクト

実施日 2021年10月26日～2022年3月末

担当部局 高度人材育成推進センター

連携先など 堺市、株式会社さかい新事業創造センター(S-Cube)、NPO法人Silent Voice

聴覚障害のある児童・生徒へ教育事業を展開するNPO法人Silent Voiceが、出張教室とオンライン授業を組み合わせた新しい支援のカたち「DACCOプロジェクト」を大阪府と共同で立ち上げました。そこに、本学、堺市役所、さかい新事業創造センター(S-Cube)が協働し、「堺市出張教室@DACCOプロジェクト」を開設し、つながりと学びの機会を提供しました。学生も出張教室のスタッフとして参画し、授業のサポートやイベントの企画立案や運営などを主体的に行い、社会課題解決型のビジネスを体験できる貴重な機会となりました。

実施場所：さかい新事業創造センター(S-Cube)

支援対象：小学校1年生～高校3年生



DACCO プロジェクト

SDGsへの取り組み

07 | OHASU FUNプロジェクトへの連携

実施日 通年

担当部局 生命環境科学研究科

連携先など OHASU FUN

堺市の大蓮公園において住民が自ら公園を育てる取り組みとして「OHASU FUN」と名付けた地域が主体となるプラットフォームが誕生しました。緑地計画学研究室*では本プラットフォームに参画し、プログラムをサポートしています。年数回のフェスタ等のイベント開催に協力するとともに、メンバーの拡大を図り、取組みの方針を検討するための学術的な機能を担っています。

担当教員 生命環境科学研究科緑地環境科学専攻* 准教授 武田 重昭

*2022年4月から農学研究科



OHASU FUN FESTA

SDGsへの取り組み

09 | 南海電鉄との連携事業

実施日 通年 **担当部局** ボランティア・市民活動センター(V-station) **連携先など** 南海電気鉄道株式会社

南海電鉄とV-stationが連携し、泉北ニュータウンの地域活性化や魅力発信、産学連携強化を目的とした施策を共同で実施しています。2021年度の取り組み一例は下記のとおりです。

■散走SembokuEats～自転車で巡る、泉北ご当地グルメ～(全2回)
泉ヶ丘駅前の商店街を舞台に、「散走」とまちバルを組み合わせた企画を実施しました。
実施日：2021年4月24日(土)～5月9日(日)、2022年3月19日(土)～5月8日(日)

■健康シニアフェスタ in いずみがおか
「今だからこそ、家族みんなで“健康で心地よい暮らし”を考えよう！」をテーマに、運動意欲の喚起と健康管理の意識向上を目指して実施しました。
実施日：2022年3月26日(土)

■ステンドグラス企画第2弾
市大、府大の学生が協力して企画・制作したステンドグラス風アートで、駅舎を彩りました。
展示期間：2021年5月6日(木)～6月10日(木)
展示場所：白鷺駅



健康シニアフェスタ

SDGsへの取り組み

10 | おとあそび工房との協働

実施日 通年 **担当部局** 文学研究科 **連携先など** おとあそび工房

知的な障害のある人を含む小学生以上の人々が集まり、即興表現を行うコミュニティを形成し、主に障害者に関する社会的課題を共有しつつ、表現のあり方を探っています。本学教員も参画し、2014年度からワークショップや年一回の公演を行っています。2021年度はコロナ禍のため公演は中止となりましたが、ワークショップを開催し、楽器に触れたり踊ったりしながら即興でのおとあそびを楽しみました。

担当教員 文学研究科 准教授 沼田 里衣

開催回数 9回(各回約20名参加)

SDGsへの取り組み



2021年11月25日 ワークショップ風景

11 | 都市沿岸部に造成された人工湿地の環境モニタリング

実施日 通年 **担当部局** 工学研究科 **連携先など** 大阪市、NPO法人南港ウェットランドグループ

大阪市の港湾海域には、自然環境の保護を目的とした人工の湿地(大阪南港野鳥園)が造成されており、野鳥や生物の生息場としてだけでなく水質浄化や気候変動の緩和など都市の環境保全に貢献しています。都市と自然が共存した持続可能な沿岸環境の整備に向けて、大阪南港野鳥園干潟をモデルケースに、水質や生物のモニタリング調査による人工干潟の健全性の評価や環境保全効果の調査を行っています。



大阪南港野鳥園の干潟干潟部で生物の採取調査をしている様子

2021年度は、「定点カメラによる大阪南港野鳥園干潟における鳥のモニタリングとベントス類の分布推定に関する研究」と「大阪南港野鳥園における温室効果ガスの吸収能の観測」というテーマに取り組みました。

■**担当教員** 工学研究科 准教授 遠藤 徹

SDGsへの取り組み

12 | Zoomを活用した転倒予防のための棒体操教室

実施日 通年 **担当部局** 総合リハビリテーション学研究科*

連携先など 社会福祉法人 松原市社会福祉協議会

数年前より松原市社会福祉協議会と共同し、地域在住高齢者の転倒予防を目的とした予防リハビリの棒体操を実施しています。コロナ禍においては、感染拡大時期に外出機会が大幅に減少し、とりわけ高齢者が自宅に閉じこもることからフレイル状態に陥ることが心配されていました。2021年度は新たな生活様式に合わせ、これまで一か所に集まっていた会場を分散し三密を避けながら、Zoomを活用した棒体操教室を開催しました。



Zoom開催の様子

*2022年4月からリハビリテーション学研究科

棒体操とは?

新聞紙朝刊1部を丸めて両端と真ん中を赤・青・黄色のガムテープで貼り付けた新聞棒を、投げたり受け取ったりする簡単な体操です。片手でキャッチしたり、持ち替えたりあらゆるパターンがあって、約20~30分くらい運動します。新聞棒は取り損ねることも多く、日常生活では経験できない、バランスを崩すことを体験することができるため、予期せぬ転倒を防止することを目的としています。

SDGsへの取り組み

13 | 委員委嘱・アドバイザー派遣

実施日 通年

地域や各種団体などから、本学教員の専門性や知見を活かした助言を求める依頼が数多く寄せられます。幅広い分野における委員やアドバイザーとして本学教員が携わり、さまざまな課題解決に貢献しています。

就任一例

まちづくりに関する委員会委員、高校等の学校運営に関する助言、食環境の整備に関する助言など

本学へご相談の場合は、地域連携センターまでお問い合わせください。

SDGsへの取り組み

地域連携センターお問い合わせフォーム

<https://www.omu.ac.jp/connect/contact/>



人材育成



01 | 本学学生に向けた取り組み

1 地域志向教育への取り組み

実施日 通年 **担当部局** 地域連携センター

都市や地域社会が抱える課題とその解決の方策を現場で学修するプログラムとして、副専攻科目を開講しています。また、本科目で実習等に貢献し得る教育・研究活動を行う本学教員に対して助成も行っており、学部横断的な研究活動として展開しています。

2021年度の実績

■地域志向教育研究補助事業におけるフィールドワークの実績

事業採択を受けた8課題のうち、下記4課題が各地域を訪問しフィールドワークを行いました。

担当教員	訪問先
工学研究科 准教授 遠藤 徹	和歌山県和歌の浦
経済学研究科 教授 松本 淳	徳島県三好市、福井県福井市
生活科学研究科 准教授 生田 英輔	兵庫県神戸市、和歌山県御坊市
都市研究プラザ 教授 水内 俊雄	和歌山県かつらぎ町他、大阪府貝塚市他

■CR(コミュニティ再生)副専攻

▶アゴラセミナーII 成果発表会(オンライン) 履修者:6名(各テーマ1~3名)

- ① 和歌山県大崎「大崎の文化と現状:これからの観光・移住政策を見据えて」
- ② 大阪市内「大阪の大衆演芸の歴史と現在、これから」
- ③ 大阪市内「避難に役立つ標識:多様化社会における水害標識サインとは」
- ④ 大阪市淀川区「都市のフードデザート問題:淀川区加島地域を事例に」

▶地域実践演習

- I 地域活性(担当 小長谷)履修者9名/「港まちづくりタイムズ第8号」にて成果紹介
- II 環境・防災(担当 生田)履修者9名/神戸市と御坊市でフィールドワークを実施
- III 地域福利(担当 水内)履修者18名/有田川流域&御坊市フィールドワークを実施
- IV 地理・空間(担当 蕭)履修者6名
/大阪市住吉区にてフィールドワークを実施
- V 地域・文化資源(担当 天野)履修者7名
/奈良旧街道ガイドブック「まほろばへ続く道」の制作



アゴラセミナーII 成果発表会(Zoom)の様子

SDGsへの取り組み

2 社会課題解決アイデア発表会2021—共創の学びの場—

実施日 2022年3月3日(木) **担当部局** 大学フェローシップ創設事業(スマート社会)事務局 **連携先など** 大阪府

本発表会は、博士後期課程学生(D)の支援プログラム*でのイベントとして開催しました。研究で取り組んでいる内容を活かして社会課題を解決するアイデアを募集したもので、人・モノ・社会・文化などの社会課題に対峙し、多数のステークホルダーとの共創活動により、その課題を解決する仕組みの具体的なデザイン化を目指し、課題検証からアイデア創出をとおして、企画実行する能力やチャレンジ精神を有する人材育成も目指しています。

また、審査には本学教員以外にも大阪府や企業の方にも参加いただき、多様な角度から講評をもらうなど自治体・企業とも連携して取り組んでいます。

*文部科学省科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業「スマート社会を牽引する共創型X-Care 課題解決アーキテクト養成」

2021年度参加:4チーム(*フェローシップ事業生)

【最優秀賞】「生ごみが生まれ変わる宇宙農業の技術」(チーム名:宇宙農業)/代表:生命環境科学研究科 D1*

【優秀賞】「Solution for the Golden Tides in Mexico」(チーム名:Sargazo)/代表:人間社会システム科学研究科 D1*

【奨励賞】「不登校児の健康診断未受診問題」(チーム名:社会福祉)
/代表:人間社会システム科学研究科 D1*

【奨励賞】「日本の若者の自己肯定感を高めたい」(チーム名:チームせるふあむ)
/代表:人間社会システム科学研究科 M2

SDGsへの取り組み

3 「もったいないやん! 食の都大阪で美味しく食べきろう」学生プロジェクト

実施日 通年 **連携先など** 大阪府環境農林水産部

大阪の歴史と食文化に培われた「もったいない」と「おいしさを目指す」心を大切に、効果的な取り組みを進めるため、大阪府内の管理栄養士を目指す大学生と連携してさまざまな啓発手法を検討・発信するプロジェクトです。府内から7大学が参画し、本学学生もワークショップやゼミの活動を通して食品ロス削減に向けて考えました。

■食品ロスに向けた啓発リーフレットの作成
家庭で余りちな調味料とそれを活用したレシピを紹介

■交流ワークショップでの意見交換など
2021年6月12日(土)、9月2日(木)

■事業者との連携
大阪府内のさまざまな事業者や他大学のサークルの学生たちと、店舗の売れ残りを防ぐアイデアについて意見交換を行いました。
2021年12月16日(木)



作成したリーフレット

SDGsへの取り組み



4 保健師課程授業科目への行政と連携した取り組み

実施日 通年 **担当部局** 看護学研究科 **連携先など** 大阪市内各区

大阪市内複数の区を対象に、保健師課程の演習・実習科目のフィールドとして学生が地域に入って学んでいます。

▶▶ 2021年度の履修実績：いずれも20名

■地域看護診断演習
保健師活動における具体的な活動方法を理解・習得するために、地域保健活動の展開方法の一つである地域看護診断のプロセスについて学びます。地域データや地域特性を踏まえた地区踏査(フィールドワーク)を行うことで、地域の健康課題を抽出し、地域保健活動計画を立案する能力を養います。

■公衆衛生看護実習
市内保健福祉センターにおいて実施し、保健事業や地区組織活動への参加、家庭訪問等を体験することにより、公衆衛生看護に対する理解を深め、自ら実践できる能力を養います。実習区の地区診断から健康課題の抽出、解決に向けた保健事業の企画立案・実施・評価などをとおして、一連の公衆衛生看護活動の基盤となる過程を理解します。

SDGsへの取り組み



02 | 高大連携等の取り組み

1 高校生のための先端科学研修 ～大阪市立大学化学セミナー～

実施日 2021年7月31日(土) **担当部局** 理学部化学科、地域連携センター

連携先など 大阪府教育委員会

2021年度は2年ぶり、本セミナーとしては初めてのオンライン開催となりましたが、海外からもご参加いただき、オンラインの特性を活かした広がりを感じられるセミナーとなりました。

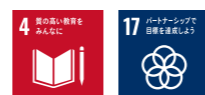
開催方式：オンライン(Zoom ウェビナー)

参加者数：205名(のべ)

Aコース	生活の中で活躍する化学のチカラ	理学部化学科 講師 三枝 栄子
Bコース	光で解き明かす生体分子の世界	理学部化学科 教授 細川 千絵
Cコース	クロスカップリング入門	理学部化学科 教授 佐藤 哲也



SDGsへの取り組み



2 市大授業

実施日 2021年4月29日(木・祝)

担当部局 文学部、理学部、地域連携センター **連携先など** 大阪府教育委員会、地域の高等学校等

新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての授業に加え、文学部学生とのフリートークや図書館紹介もオンラインにて実施しました。

開催形式：オンライン(Zoom ウェビナーなど)

参加者数：971名(のべ)

●文学部 (4授業)426名(学生とのフリートーク)30名

●理学部 (5授業)515名

※学術情報総合センター紹介動画配信 再生回数218回

文学部を知りたい人のための市大授業～ひらけゆく世界 みえてくる人間～	
21世紀アメリカの文学を英語で読む	言語文化学科 准教授 古賀 哲男
なぜメディアを研究するのか？：メディア社会学の現在	人間行動学科 教授 石田 佐恵子
中国古典詩の解釈のおもしろさ	言語文化学科 准教授 高橋 未来
ポピュラー音楽と政治 ーJポップはなぜ「ニッポン」を歌うのか	文化構想学科 教授 増田 聡

数学や理科の好きな高校生のための市大授業	
対数とベンフォードの法則	数 学 科 教授 伊師 英之
生命現象を化学のことばで理解する	化 学 科 准教授 白杵 克之助
X線回折法と分光法を用いた鉱物の研究	地 球 学 科 准教授 篠田 圭司
素粒子の世界から宇宙を理解する？	物 理 学 科 教授 中野 英一
根も葉もない植物のはなし	生 物 学 科 教授 山田 敏弘



SDGsへの取り組み



3 第17回高校化学グランドコンテスト

実施日 2021年7月～10月 **担当部局** 理学部・理学研究科、地域連携センター **連携先など** 横浜市立大学、読売新聞社

7月から始まった大学教員による研究サポートやエントリー募集、さらには一次審査を経た後、全国の高校生が最終選考会でポスター発表、口頭発表に分かれて研究成果の発表を行いました。2年ぶりの開催となった最終選考会は、初のオンライン実施となりました。全国から72チームのエントリーがあったほか、前回に続き、台湾とシンガポールからも3校を招へいしました。入念な準備と工夫を凝らした研究発表から、高校生たちの化学に対する熱い思いを感じるとともに、ICT化の可能性を見出す大会となりました。

主 催：大阪市立大学、横浜市立大学、読売新聞社

■最終選考会

開催日：2021年10月23日(土)、24日(日)

参加者：464名(のべ)

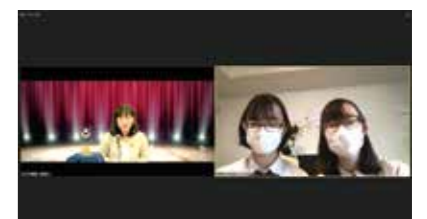
プログラム：1日目 ポスター発表(62チーム)

2日目 口頭発表(10チーム)／海外招へい校発表(3チーム)／表彰式

結果

- 文部科学大臣賞／第一三共賞 東京工業大学附属科学技術高等学校
- 二大学学長賞 富山県立富山中部高等学校
- 審査委員長賞／シュプリング賞・ネイチャー賞 大谷高等学校
- 審査委員長賞 愛媛県立西条高等学校
- パナソニック賞 愛知県立半田高等学校
- シュプリング賞・ネイチャー賞(ポスター発表) 東京都立小石川中等教育学校、沖縄県立球陽高等学校
- 大阪市長賞 静岡市立高等学校
- 読売新聞社賞 大阪府立天王寺高等学校

SDGsへの取り組み



東京工業大学附属科学技術高等学校へのインタビュー

4 府大★高専 小中学生サマーラボ —小・中学生の「学び」をサポート—

実施日 2021年7月26日～8月24日

「地域における次世代人材育成」への寄与を目的として、小・中学生を対象とした学習プログラム「府大★高専 小中学生サマーラボ」を開催しました。

2021年度で4回目を迎える本プログラムでは、コロナ禍の影響により一部の対面講座は残念ながら中止となりましたが、オンライン開催により、夏休み中の子どもたちに知的好奇心と探究心を刺激する「学び」を提供しました。

7月26日(月)	Pepperと学ぼう！2つの「できること」 —認知症になっても「できること」、私たちが「できること」—
8月1日(日) 午前・午後	小学校高学年のためのロボット教室(全2コマ)
8月18日(水)	IchigoJamを使ったプログラミング入門(オンライン開催)
①8月18日(水)～ 24日(火)	地デジアンテナを作ってみよう！ ①YouTubeにて動画公開
②8月24日(火)	②Zoomでのオンライン質問会



小学校高学年のためのロボット教室

SDGsへの取り組み



5 第16回女子中高生のための関西科学塾

実施日 通年

連携先など 一般社団法人関西科学塾コンソーシアム、京都大学、大阪大学、神戸大学男女共同参画推進室、奈良女子大学

「女子中高生のための関西科学塾」では、実験活動や理系の先輩たちとの交流・講演などを通して、理系の世界の幅の広さや奥の深さ、その道に進む魅力を実感できる事業を通年で行っています。関西にある6つの大学*が1年ごとに幹事校となり、その年度の関西科学塾を運営しており、2021年度は府大が幹事校となりました。

*京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、大阪市立大学、大阪府立大学

▶▶▶ 本学におけるプログラム ※オンライン開催(3月19日・20日のみ対面)

2021年 7月11日(日)開校式、講演、大学生との交流会など(府大)

2021年 8月18日(水)研究所見学、女性技術者との交流会(府大・ダイセル)

2021年10月24日(日)実験・演習(市大)

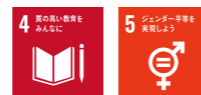
2021年12月12日(日)研究施設見学、交流会(府大)

2022年 3月19日(土)、20日(日)実験・実習とまとめ、発表会、表彰式(府大)



実験プログラム「顕微鏡で覗く、小さな生き物の世界」の様子

SDGsへの取り組み



6 教育研究フィールドでの実体験型食農プログラムの提供

実施日 通年 担当部局 生命環境科学域* *2022年4月から農学部

生命環境科学域*附属「教育研究フィールド」では、資源植物の収集・評価・保存、組換え植物などの実用化、有用植物の特性評価、環境影響評価などの教育・研究への支援を行っています。実体験を通じて、都市に住む小中高生の「生命」・「食」・「農」・「環境」への興味関心を促進し、意識を高めることを目的として、教育研究フィールドと連携した実体験型食農プログラムを提供しています。2021年度の取り組みを以下にご紹介します。

■田植え見学とお米の種類、栽培環境についての学習 70名参加

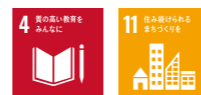
■稲刈り見学と関連学習(稲穂の観察、コンバインの構造、収穫量の評価方法、おからご飯ができるまで) 70名参加

■秋の植物についての総合学習 150名参加



稲刈り見学の様子

SDGsへの取り組み



7 研究室訪問・出張講義など

実施日 通年

小中高大連携の取り組みとして、各学校等での研究指導や出張講義の実施、大学の研究室への訪問受け入れを行っています。さまざまな連携を推進することで、生徒たちの探究活動の充実を図るとともに、研究分野への興味関心を高め、学習意欲を醸成し、将来の進路選択に寄与することを目指しています。

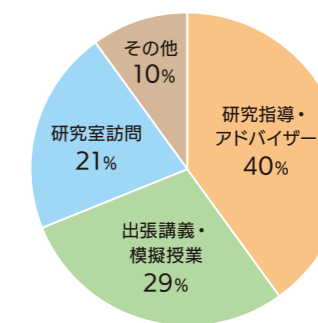
▶▶▶ 実施一例

模擬授業の実施、科学実験教室の開催、探求学習における発表会のアドバイザー、大学研究室訪問受け入れなど

実施概要別はグラフ参照

*2021年度実績のすべてが反映されているわけではありません。

■実施概要



PICKUP 1

本学研究推進課に所属する技術職員の社会連携活動として、毎年、8月に開催される「青少年のための科学の祭典・サイエンスフェスタ」に実験ブースを出展しています。本事業は、2日間で約2～3万人の来場がある大規模なイベントで、小中高の教員や理科部、企業、大学など幅広い団体からブースが出展され、価値ある体験の機会を提供するとともに、次世代の科学を担う人材輩出への貢献を目指しています。2021年度はオンラインで開催され、本学も「水道の水と海の水、どっちが重い？」の実験動画を提供しました。

【これまでの出展実験(例)】

音を見てみよう、転がしてわかる地球の重力、ふりこウェーブ、色の分離、シャボン玉の色、魚の解剖、ニワトリ胚の観察、セミのふ化、カラクリおもちゃ作り など

PICKUP 2

大阪府立の高等学校と連携し、高校2年生を対象に、体験型の進路学習として研究室訪問の受け入れや生徒による学習発表への講評を行いました。事前課題に取り組み、生徒自らが研究室を訪れ大学教員や大学生と交流することで、研究内容に触れ、学問に対する興味や関心を促し、学びへのよろこびを感じる機会を提供しました。

SDGsへの取り組み



03 | 地域の人材育成に資する取り組み

1 防災士養成講座

実施日 2021年6月～10月 担当部局 都市防災教育研究センター*

大阪市立大学都市防災教育研究センター*は、日本防災士機構に防災士養成研修機関として認定され、2016年度から防災士養成講座を開講しています。当講座で学び、資格取得された方々は防災リーダーとして地域で活躍され、地域防災力の強化に役立てていただいています。

▶▶▶ 2021年度実績

プログラム: 説明会・ワークショップ 6月19日(土)、21日(月)

講座 7月3日(土)、4日(日)

資格取得試験 10月17日(日)

受講者: 167名

開催場所: 大阪市立大学杉本キャンパス

*2022年4月から都市科学・防災研究センター



防災士資格取得試験会場の様子

SDGsへの取り組み





2 7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン

実施日 通年 担当部局 医学研究科・看護学研究科

文部科学省・2017年度研究拠点形成費等補助金事業「多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」に採択された、近畿圏の国公立7大学*9学部の医学、看護学、薬学、理工学系大学院研究科が相互連携し、多様化する新たなニーズに対応した個別化医療を実践できるがん専門医療人の養成を推進するプランです。以下に2021年度の活動一例をご紹介します。

*近畿大学、大阪市立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫医科大学、大阪府立大学、神戸市看護大学



■教育プログラム

大学院コース

医師や看護師等の医療従事者を対象とした大学院コースを設置しています。(以下コース一例)

- ▶小児がんに対応できる医療人材の養成コース
- ▶多様なニーズに対応する血液専門医養成コース
- ▶同種造血幹細胞移植指導医養成コース
- ▶ライフステージにおける課題対応がん看護専門看護師養成コース など

インテンシブコース

がん診療に携わる医療従事者が専門医や専門看護師等から職種を超えて学べるコースで、地域のがん診療の向上を目指しています。(以下コース一例)

- ▶多様なニーズに対応する、がん専門医療人養成インテンシブコース
- ▶多様なニーズに対応する、地域中核病院専門医療職養成インテンシブコース
- ▶がん患者のライフステージにおける課題対応を志向した看護師養成コース
- ▶がん医療に強い専門看護師養成コース など

■セミナー、講演会など

- ▶教育イノベーションセミナー
- ▶がんプロフェッショナル養成セミナー
- ▶看護学研究科がん看護講演会
- ▶近畿地区3拠点合同フォーラム「がんプロ15年間のがん教育、コロナ禍によるがん教育について」など
- ▶大阪市立大学緩和医療研究会
- ▶がん看護実践者養成セミナー



3 訪問看護専門研修事業

実施日 2021年8月～12月 担当部局 看護学研究科 連携先など 大阪府

大阪府では、訪問看護ステーションで勤務する看護職員、セラピスト(作業療法士、理学療法士等)を対象に、職種やキャリアに応じた専門知識・技術の向上を目指して訪問看護専門研修事業を行っています。看護学研究科では、この事業のうち指導者向けの訪問看護専門研修を受託しています。在宅医療を担う訪問看護師など専門職の人材育成を目的に、本学が有する教育機能と専門性の高い人材を活用し、訪問看護従事者の教育・指導に携わる方々向けの研修を企画・運営しています。

2021年度開講プログラム(WEB配信)

- Aコース「生活を支えるベーシックケア」(8月1日(日)～9月30日(木))
- Bコース「エンド・オブ・ライフケア」(9月1日(水)～10月31日(日))
- Cコース「新任訪問看護師の育てかた」(10月1日(金)～11月30日(火))
- Dコース「状態・状況別アドバンスケア」(11月1日(月)～12月31日(金))



4 地域のボランティア養成

実施日 通年 担当部局 ボランティア・市民活動センター(V-station)

本学では、V-stationを中心に、地域で活躍するボランティア人材の育成に関する取り組みを行っています。以下、2021年度の取り組み一例をご紹介します。※V-stationについては29ページに掲載しています。

■堺市生涯学習サポーター養成講座・地域コーディネーター育成講座

地域や職場などで趣味や特技を活かし、主体的に学びの楽しさを広げる生涯学習活動の担い手として活躍する「生涯学習サポーター」、子どもたちの学びを支援し地域の教育体制を構築する役割を担う「地域コーディネーター」のスキルアップ講座に参加し、講師として大学におけるボランティアの取り組みをお話ししました。

■災害ボランティア研修会

頻発する災害の復旧・復興支援の現場において学生ボランティアが活躍できるよう、被災地支援について、学び・考える場を企画しました。堺市社会福祉協議会から講師を迎え、災害ボランティアとしての心構え・注意事項、活動の手続きについて説明しました。



その他

01 | 生涯学習・公開講座

1 2021年度開講講座

■大阪府立大学

講座名	総コマ数	総受講者数
21世紀科学セミナー	9	194
韓国語講座 初級編	20	18
脳科学II(神経病理学)	10	25
Bonjour!ABC(アーベーサー)から学ぶフランス語	10	18
ドストエフスキーを読む	10	61
哲学の原点 古代ギリシアの哲学者たち	10	52
学校コラボレーション講座 ―SSWのための学校コラボレーションセミナー―	6	60
現代システム科学域連続セミナー ―持続可能な現代社会の創造に向けて―	6	88
アカデミックカフェ	6	78
高校生のための夏期化学実験講座	1	29
小学校高学年のためのロボット教室	2	26
高大連携講座	22	58
使える英語力が身につく英語学習法入門講座	1	26
学校コラボレーション講座 ―現場に活かすスクールソーシャルワーク(SSW)実践セミナー―	5	44
美術史は革命の歴史?!	6	35
デジタル革命と未来社会を考える	4	39
健康自己管理セミナー	6	26
わたしたちの知らない獣医学の世界 ―動物の病を通して大切な生命(いのち)と向き合う―	10	54
ミュージカル《エリザベト》を見て学ぶドイツ語圏の歴史と文化	4	43
公認心理師のための心理アセスメント入門 臨床実践に生かす心理アセスメント	5	21
消費者子育てセミナー	6	48
第25期女性学講演会「計量分析から読み解くジェンダーと家族」	3	94
身体の動きを高めるファンクショナルトレーニング	8	32
府大講座	8	12
高校生のためのマテリアルサイエンス入門	2	58
第18回三大学連携事業公開講座「SDGs 誰一人取り残さない社会のために」 ※15ページ参照	1	241
貴重図書特別部会講演会「大阪府立大学 大阪市立大学の貴重書」	2	10
関西経済論XXVII	1	398
中国語初級文法のポイント	3	46
コロナ禍における子ども、家庭、学校 ―2020年度の調査結果から得た知見を、どう活かすか	1	80
大阪国際感染症研究センターキックオフセミナー(公開講座) ～府民・市民の新型コロナウイルス感染症対策に如何に貢献するか～	10	—
地域リハビリテーション学コース オープンセミナー	2	43
PFCセミナーI	14	13
2021年度 スマートグリーンハウス指導者育成研修(PFCセミナーII)	9	100
PFCセミナーIII	7	130
大阪府立大学 研究推進機構 21世紀科学研究センター 2021年度 分子エレクトロニクスデバイス研究所 (RIMED第23回研究会)&機能性有機材料開発研究センター 合同オンライン研究会	1	80

■大阪市立大学

講座名	総コマ数	総受講者数
文化交流センター公開講座	7	68
文化交流センター・野村證券株式会社共催講座 資産運用の基礎と活用～知っておいたほうが良いこと～	2	20
文化交流センター専門家講座 会計・税金コース/人間・社会コース/証券コース/法律コース/スポーツコース/ 理学コース/技術コース/メディアコース/生活科学コース/文化・歴史コース/	21	249
まちなみ古写真展・公開講座～パノラマで見る梅田・中之島～ ※8ページ参照	1	66
第18回三大学連携事業公開講座「SDGs—誰一人取り残さない社会のために」 ※15ページ参照	1	241
博学連携事業 関連講座 ※14ページ参照	9	374
近鉄文化サロン共催講座	13	282
高齢者大学校×大阪市立大学連携市民公開講座 ※16ページ参照	3	150
市大授業 ※21ページ参照	9	941
大阪市立大学化学セミナー「高校生のための先端科学研修 ～化学の世界に触れる～」 ※20ページ参照	3	205
市民医学講座 ※下記Topic参照	10	3296
MedCity21医学講座	5	399
都市経営研究科 授業『都市ビジネスワークショップI』での講演	2	—
都市経営研究科 公開ワークショップでの講演	27	949
南部陽一郎物理学研究所 市民セミナー「21世紀の物理学」	1	120
サロンde人権	8	121
認知症サポーター養成講座	1	30

Topic 「市民医学講座」

「現代人と病気」というテーマのもとに、病気と医療についてわかりやすく解説し、病気の治療と予防について知識を深めていただくために開催しています。1996年から始まり、2021年度は第251回から第260回までをオンライン開催し、インターネットで多くの方に視聴いただきました。

（講座タイトルの一例）

「めまいがおこった時には…」、「口の健康から健康寿命を延ばす」、「変わりゆく肝硬変の原因と治療」、「“がん”の原因と治療方法」など

2 出張講義

実施日 通年

自治体など公的機関、市民団体、企業、NPO等からの依頼を受け、教員が学外に出向いて講義を実施しています。生涯学習に対する社会的要請に応え、大学の教育研究の成果を広く社会に還元する活動です。

例

- 大阪府障がい者交流促進センター「中級障がい者スポーツ指導員養成講習会」
- 大阪市財政局「法律研修(民法)」
- 箕面市教育委員会「箕面市熱中症対策・防止教職員向研修会」
- 兵庫県阪神シニアカレッジ「国際理解学科」
- 一般社団法人東大阪青年会議所「会員研修事業(リーダーシップ研修)」
- 里親養育サポートセンターれりーふ「里親養育アドバイザー研修」など

出張講義についてはこちらから

<https://www.omu.ac.jp/lifelong-learning/course/delivery/>



02 | 地域連携センターでの取り組み

1 第9回地域連携発表会「ラストイチダイー未来につなぐ地域連携—」

実施日 2022年3月10日(木)

大阪市立大学地域連携センターとしての最後の発表会は、オンラインを併用したハイブリッド開催となりました。「ラストイチダイー未来につなぐ地域連携—」をテーマに、これまでの事業を総括しながら、新大学における地域連携の展望について考えました。



座談会の様子

■学生発表

部門	タイトル	発表者
研究・調査	3Dレーザーキャナーを用いた遊郭、妓楼建築の図面作成	工学研究科 布施 和樹
	【特別賞】「堺市消防局まちかどAED」設置場所とCPA発生地点の分布からみたAEDアクセシビリティ	文学部 伊藤 航
	【副所長賞】研究で、貢献していく—地域貢献に繋がる人口分析や地域調査の方法の検討と実践	文学研究科 小本 修司
活動	【所長賞】持続的に行うグローバルヘルス—子どもが健やかに育つために大人にできること—	医学研究科/雲の上はいつも晴れ 高田 勝子
	地域社会を繋ぐ大学生の子育て応援とは	文学部/親子カフェおそら 阿部 真衣奈
	【副所長賞】大崎だより—和歌山県海南市下津町大崎におけるガイドブックづくり—	工学部 石黒 陽菜 生活科学部 東海林 久乃 商学部 野田 夢乃

■本学教員による事例発表、座談会

事例名	発表者
大阪役所・区役所との共同研究・受託事業などを振り返って	都市研究プラザ 教授 水内 俊雄
市大型地域連携教育の総括—CR副専攻におけるPBL型演習の実践を中心に—	文学研究科 准教授 天野 景太
城東区・今福地域活動協議会、今福プログラミング教室での講演の事例について	工学研究科 教授 高田 洋吾



2 地域連携センターにおける相談受付実績

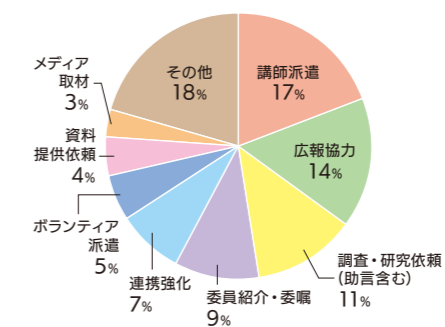
実施日 通年

■年間相談件数の推移



コロナ禍2年目となった2021年度は、これまでで最多となる相談が寄せられ、withコロナの生活が定着し社会活動が動き出したことが感じられました。

■相談内容



教員への講演や委員委嘱の依頼の多さに加え、調査・研究依頼(助言含む)や連携強化の割合の大きさから、大学の持つ教育力・研究シーズに対する期待がうかがえます。



03 | 都市防災教育研究センター (CERD=Center of Education & Research for Disaster Management)

都市大阪を基盤として、防災教育・防災研究を推進するために2015年に開設しました。災害リスクの評価や災害対応力の向上、社会実装に関する研究を推進するとともに、防災教育および防災リーダーの育成を行っています。また、国内外の防災関連機関と連携し、巨大複合災害に向け、最新の研究・技術・都市科学を踏まえた新しいコミュニティ防災システムの確立を目指しています。以下にて2021年度の地域貢献に関連した活動の一部をご紹介します。

2022年4月からUReC*の都市防災部門となりました。



■研究者・人材育成

- サイエンスカフェ[防災研究座談会](4回112名参加)
職種問わずさまざまな方が参加し、専門家と気軽に交流ができる座談会を年に数回開催しています。
- 防災士養成講座(167名受講) ※23ページ参照

■コミュニティ育成

- コミュニティ防災人材育成プロジェクト
2020年10月から国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の支援を受けて、コミュニティ防災人材育成プロジェクト「MUSUBOU」を展開し、2022年3月末時点で108名が受講し防災の輪が広がっています。

MUSUBOU(むすぼう)とは…

開発中のコミュニティ防災人材育成プログラムのプラットフォームです。eラーニングによる防災に関する基本的知識の習得や、段階を踏んだ実践的な教育プログラムへの展開をとおして、地域をはじめとする多様なコミュニティの防災力向上を担いながら、人・コミュニティ・防災をむすぶ人材を育成します。

- コミュニティ防災フォーラム2022(78名参加)
2022年2月19日(土) オンライン開催

■社会連携

- 地域防災力の向上を目的として出張講義および講演を行っています。(8回実施)

■研究基盤整備

- 防災ミュージアム
災害知を継承するための災害データベースや防災教育教材の収集・展示を行っています。
- 都市防災研究シンポジウム(61名参加)
2021年11月6日(土) 大学での現地会場とオンラインをつなぐハイブリッド形式にて開催しました。

SDGsへの取り組み



04 | 都市研究プラザ(URP=Urban Research Plaza)

大都市に所在する公立大学として、街に溶け込む新たな研究の広場、都市再生の国際交流拠点を標榜し、2006年に開設しました。キャンパス内に核をおきながらも、現場や海外に出向き、研究やまちづくりの活動を組織し、「都市」というテーマのもとに開かれたネットワーク拠点を形成してきました。以下に、2021年度の地域連携に関連した活動の一部をご紹介します。

2022年4月からUReC*の都市科学部門となりました。



■研究者・人材育成

2014年4月に文部科学省「共同利用・共同研究拠点」のひとつに認定され、個別の研究機関の垣根を越えた共同研究を支援する取り組みを継続してきました。これに加えて、本学教員を代表者として重要な研究テーマに取り組む12件の共同研究プロジェクトを発足させ、先端的な都市研究を進めました。

- ▶【連続ウェビナー】包容力のある都市論研究会(全4回:120人)
※JSPS科研費「生活困窮者自立支援の実践に見る社会包摂原理の日本の受容に関する学際的探究」(代表 水内俊雄)
- ▶研究講演「ピアノのできること/できないこと」(150人)
※文科省科研費基盤B「アジアにおける社会包摂型アーツマネジメントモデル形成と応用」(代表 中川真)
- ▶トッカビ連続講座(全3回:80人)
※JSPS科研費「外国人の「権利獲得・擁護」モデルの「多文化共生」創出に向けた研究」(代表 鄭栄鎮)
- ▶都市再生フォーラム2021(100人)
駐大阪大韓民国総領事館との共催にて開催し、地域内に散在するエスニックな地域資源や歴史、文化資源などをさまざまな資源を活かした人権と多文化共生のまちづくりを考えました。
- ▶後期全学共通科目「市大都市研究の最前線」(履修142人)

■コミュニティ育成

- ▶第11回オープンナガヤ大阪2021(3,000人)
- ▶公募型共同研究(6件)
- ▶若手研究助成(特別研究員(若手)4人)

■社会連携

- ▶都市研究プラザ事業総括シンポジウム(60人)
設立以来の活動を振り返り、2022年度からの新組織に継承すべきその成果を明らかにしながら、今後の展望を共有しました。
- ▶第19回URPバンコクフォーラム(200人)

■研究基盤整備

- ▶都市文庫(2022年3月末:所蔵数58,025冊)
URPの開設に伴い廃止された都市問題資料センターが所蔵していた貴重な図書資料を「都市文庫」として所蔵し、本学学生・教職員等に活用していただいています。
- ▶上田貞治郎写真史料アーカイブ(保有数 数千点)
20世紀初頭に撮影された膨大な数の写真資料や関連した文書史料を整理し、調査分析し、その一部を公開しました。

SDGsへの取り組み



05 | ボランティア・市民活動センター(V-station)

連携先など 堺市、大阪府、NPO法人、社会福祉法人、社会福祉協議会など

V-stationは、ボランティア活動を通じた学生等の自己発見、市民性の育成、地域の課題解決とより良い社会の実現を目的として設置されており、大学周辺地域の住民組織、市民活動団体等との連携事業や、大規模災害時における被災地支援活動等、多種多様な取り組みを行っています。

また中百舌鳥キャンパスにおいては、堺市との連携のもと、本学学生に限らず、同市に在住・在勤・在学の市民等を対象にした市民活動相談窓口の機能も併せ持っています。

大学を拠点にして地域における“垣根を越えたつながり”を生み出し、多彩なコラボレーションのもと“協働と創造の文化”を育みます。

詳しくはWebサイトをご覧ください

<https://www.omu.ac.jp/volunteer/>



2021年度 活動実績の一例

■堺市における区民参画の場(区政策会議)への参加

■行政及び地域等でのボランティア活動

- ▶笑働の森づくり：建設中止となった榎尾川ダム事業予定地(大阪府和泉市)の森林環境の保全・再生と地域振興に取り組みました。(実績：4回)
- ▶棚田保全活動：営農の担い手が不足しつつある千早赤阪村において、今と変わらず美しい棚田のある風景が未来に引き継がれるよう、定期的に活動を続けています。(実績：3回)
- ▶花いっぱいさかい：市民主体のボランティア団体が「花と緑のまちづくり」をすすめています。活動に参加した学生が花苗を持ち帰り大学に植栽し、花づくりの実体験を通して学びを深め、活動の拡がりに貢献しています。(実績：2回)

■しらすぎおうちごはん(実績：18回)

府大の学生ボランティアほか地域住民による協働事業として、食の提供を通じた地域の居場所づくりを実施しています。コロナ禍においては、お弁当の配付や宅食を新たに取り入れ、手法を凝らしながら食の支援継続に取り組みました。



しらすぎおうちごはん (おせち風お弁当)

■各団体などでの講演によるボランティア活動啓発

さまざまな自治体や団体等が開催する学習会などに参加し、講師として大学でのボランティア活動の紹介や、ボランティアを通じて学んだことを伝えました。(一例)歯っぴー栄養クラブ定例会、NPO法人大阪難病連におけるボランティア学習会など

■こさえたん×府大学生のオリジナルマスクケース

大阪府では、障がい者福祉施設で作られた製品を「こさえたん」と名付け、福祉施設の製品の購入や販売活動のPR等を積極的に行っています。大阪府と福祉事業所と協働し、オリジナルマスクケースを製作しました。



こさえたんオリジナルマスクケースの完成

■地域の学校等への出前授業

- ▶ボランティア先生として、若い世代に向けたボランティア活動の紹介や体験型の出前授業を実施しました。
実施日：2021年12月23日(木) ボランティア入門(大学生・20名対象)
2022年 3月 7日(月) 防災学習(小学6年生・60名対象)
2022年 3月19日(土) 被災地学習(高校1年生・360名対象)

■おおさか災害支援ネットワーク・大学生部会

府内での発災時に緊密に連携して支援活動を行うことを目的としたNPO等によるネットワークに参画しています。大学生部会では、関西圏の大学において災害支援に取り組む学生(団体)との関係づくりを進め、V-stationが幹事役で年数回の定例会を企画し、2021年度も3回開催しました。

開催日：2021年9月18日(土)、11月13日(土)、2022年2月20日(日)

SDGsへの取り組み



* CERDとURPは統合し、2022年4月から都市科学・防災研究センター(UReC)として新たにスタートしました。詳しくはWebサイト <https://www.omu.ac.jp/orp/urec/> をご覧ください。

06 | 医学部附属病院での取り組み

実施日 通年 担当部局 医学部附属病院 連携先など 一般財団法人ものづくり医療コンソーシアムなど

公立の大学医学部附属病院として、地域と共に地域医療の充実や人材育成などさまざまな活動に取り組んでいます。

Webサイト

<https://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>



■大阪市大における医療連携『Face-to-Faceの会』

地域医療連携の取り組みとして、医療関係者であればどなたでも無料で参加できる講演会や研修会を開催しています。2021年度の開催は以下のとおりです。

- ・第43回 2021年 8月 (コロナ感染拡大に伴い文面開催)
- ・第44回 2021年11月13日(土)
- ・第45回 2022年 3月19日(土)



Face-to-Faceの会

■医学部スキルシミュレーションセンター (Skills Simulation Center ; 以下SSC)

SSCは医学研究科と附属病院の全構成員に医療技術を研鑽する場を提供するために、2007年に開設しましたが、その枠を超えて現在は地域からの参加が増えており、年間13,000人が利用する施設です。医学生、看護学生、研修医の医療技術のトレーニングを十分に実施することは、医療現場での安全・安心な医療につながっています。大阪の地域医療を担っていく人材の育成と地域との連携を密にすることで、地域医療の充実を目指しています。多岐にわたる活動の一部を以下にご紹介します。

- ▶医療に興味のある地域の小中学生や医師を目指す高校生・予備校生を対象とした医療体験
- ▶地域の医師・看護師・救急救命士・臨床工学士などの医療従事者と本学医療従事者が合同で参加する救急対応コース
- ▶一般市民や運動部学生を対象に医学生が行う初期対応救急コース(通称AED講習会)



SSCでのトレーニング

■救命救急センター(災害医療など)

大阪市内で唯一の大学病院救命救急センターとして、質の高い救急医療を提供すべき社会的責務を担っています。一人ひとりの患者により良い救急医療を提供しつつ、地域の救急医療体制の改善に取り組むことで、広く社会に貢献することを目指しています。

① 公的委員会への参画

厚生労働省をはじめとする各委員会等に参加し、救急医療体制のあり方や改善に取り組んでいます。

② 救急救命士の教育

救急救命士への講義、病院実習等に取り組んでいます。

③ 市民教育への貢献

都市防災教育研究センターに所属し、市民を対象としたコミュニティ防災教室の開講や、防災士養成講座の講師を担当し市民の防災意識を高めています。

④ 災害医療への取り組み

- ・DMATの派遣
 - ▶東日本大震災(2011)、熊本地震(2016)、熊本豪雨(2020)における災害医療活動
 - ▶大阪北部地震、台風21号(2018)における災害対応
 - ▶その他、近隣の火災や多数傷病者事案など



DMAT

SDGsへの取り組み



07 | 無料法律相談所

実施日 通年 担当部局 法学部

地域の方の相談窓口として、大阪市立大学法学部にて約60年前に設立されました。主に学生を主体に、教員と一体となり、民事関係全般にわたる法律問題について無料で相談に応じています。また、弁護士として活躍する卒業生と学生が交流する機会をもち、学生の見聞を広めることで、きめ細やかな相談活動に活かしています。

活動の詳細についてはWebサイトをご覧ください。

<https://www.omu.ac.jp/law/contribution/lawcenter/>



SDGsへの取り組み

08 | 療養学習支援センターでの活動

担当部局 地域保健学域看護学類* *2022年4月から看護学部

療養学習支援センターは、地域の方々の健康増進のために療養情報の提供をはじめとして、本学の多彩な資源の活用方法を提案する療養学習支援の場として活動してきました。2022年4月からは「看護実践研究センター」を開設し、これまでの活動を継続しながら、多様な活動に取り組んでいます。

看護実践研究センターWebサイト

<https://www.omu.ac.jp/nurs/institutions/>



出前健康講座の様子

▶▶▶ 2021年度の活動

*看護実践研究センターでも活動を継続

▶健康的に日常を生きることを応援する「ホット&ハートの会」*
慢性の心疾患・腎疾患・生活習慣病などで病気の管理が必要な方やそのご家族、および健康維持に関心がある地域の方が健康的に日常を生きることを応援する会を定期的に開催しています。(実績：オンラインで全4回開催)

▶家族への看護を考える会*

家族看護実践や教育に貢献できる人材育成を行い、家族看護学の発展と家族看護の質の向上に寄与していきたいと願い、日々研鑽を図っています。(実績：オンラインフォーラム「療養者と家族をつなぐ看護」開催)

▶クリティカルケア看護実践講座*

重症・急性疾患患者をケアする看護師を対象に看護実践からマネジメントにわたる知識・技術などと総合的に学ぶ講座です。(実績：オンラインで全2回開催)

▶地域における出前健康講座*

地域に出向き、健康に関する講話や健康相談、各種測定を行います。(実績：1回開催)

▶高齢者施設ケア(LTC)研究会

高齢者施設におけるケア事例の検討会や、グループワークによる情報交換・研究成果の報告など(オンラインにて全4回開催)

▶保健医療従事者の腰痛予防を推進する会*

看護職・介護職等の方々を対象に、福祉用具を用いて安全な患者介助の方法を学ぶとともに従事者の腰痛予防対策に取り組んでいます。(実績：オンデマンド講義の配信、セーフティケア実践報告会のオンライン開催)

▶学校などにおけるセクシュアリティ教育プログラム

※第73回保健文化賞受賞

- ・お付き合いのマナーやデートバイオレンス予防に関する講義のオンデマンド配信
- ・菅野正嗣 教授(現シス)、菅野研究室の学生との協働による「お付き合いマナーかるた」のアプリケーションの充実

▶訪問看護ステーションにおける

栄養アセスメント・モニタリングシートの活用支援

- ・利用者の栄養状態を把握し適切な支援につなげるための『栄養アセスメント・モニタリングシート』の作成
- ・訪問看護師を対象とした学習会の開催(計3回)

SDGsへの取り組み



09 | 大学における施設利用・見学の取り組み

実施日 通年

本学では、地域の方向けの施設見学等を実施しています。詳細は各施設のWebサイトでご確認ください。

▶▶▶ 一例

■図書館の一般利用(中百舌鳥・杉本)

大阪公立大学図書館では、大学の教育研究のために収集した資料を、広く学外の方の生涯学習を支援するために公開する「一般利用者登録制度」を設けています。近畿地方(大阪、三重、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山)在住で18歳以上の方が対象です。

図書館Webサイト

<https://www.omu.ac.jp/library/>



■植物工場研究センター(中百舌鳥)

植物工場研究センターは、人工光型植物工場に特化した最先端の研究開発拠点の一つです。この施設の一部をご覧いただく見学プログラムを設けています。個人向けの一般見学会や、団体見学などを月に数回受け入れ、教育機関では幼稚園から高校、大学、農業大学校まで幅広い層が見学を訪れています。コロナ禍により受け入れ数を制限していますが、コロナ禍前には年間のべ3,000名を超える方が来られていました。

植物工場研究センターWebサイト

<https://www.omu.ac.jp/orp/plant-factory/>



C22棟(PFC-C棟)